

令和元年度第2回草津市健幸都市づくり推進委員会における主な意見に対する対応・方針等について

参考資料1

項目	主な意見	対応・方針等
草津市立プール、野村運動公園、グリーンスタジアムについて	利用者数について毎年統計をとってほしい。多額の税金を投入するのだから、一部の人が使えようなら問題である。	各社会体育施設の利用者数については、毎年統計をとり、「草津市統計書」に掲載しているところ。また、利用者アンケートの実施や指定管理者の事業などを通じて、利用者の増加に繋がる取組を進めています。
公園への健康遊具の設置について	<p>公園整備を行うのであれば、鉄棒やうんていなど子どもの遊具で筋力をつけられるもの、大人も子供も使えるものがよいのではないか。正直公園で健康遊具を使っている方をほぼ見たことがない。ただ高齢者には必要かとも思うので、地域に合わせた設置をしてほしい。健康に力を入れている見た目だけのアピールにこんな多額の予算は使わず、実用的であることを望む。</p> <p>先日、南草津西公園に立ち寄った際、背筋が伸ばせるイス(ベンチ)やぶら下がりや腹筋を鍛えられる健康遊具があり、日ごろ伸ばせていない身体の部分を伸ばすことができ、気持ちがよかった。以前に家族旅行で立ち寄ったサービスエリアに似たような遊具があり、家の近所であればと思っていたので今回の整備は非常にありがたい。</p>	<p>健康遊具の設置につきましては、健康増進のためにより多くの方に御利用いただけるよう、近隣住民のニーズ等も踏まえ、順次設置を進めていく予定をしております。</p> <p>また、鉄棒やうんていなど子どもが利用できる遊具等につきましても、設置後相当年数が経過した児童遊園等を中心に、近隣住民のお声も聴きながら順次設置や改修を進めていく予定をしております。</p>
まめタク実証運行費について	<p>不便な場所に住んでいる方には、まめバスが必要だと思うので、この「まめタク」でどれくらい利便性が高まるのかは大変興味深い。試してみれば良い結果が出れば、バスとタクシーとで良い施策としていただきたい。</p> <p>少しでも外に出て歩いたり人に会ったりすることは、体を動かすことにもつながり、心と身体の健康に良いと思う。</p> <p>今後、草津市についても高齢化が進むことから、1日も早く実証運行をしてほしい、予算も少ないのではないかと。</p>	<p>デマンド型乗合タクシーまめタクにつきましては、バス交通空白地・不便地において、まめバスでは運行が困難な地域を中心に、地域住民の移動手段を確保する公共交通として、実証運行の実施を予定しており、この結果をもとに今後の「出かけたくなるまちづくり」の取組に活かしてまいります。</p>
認知症施策推進費について	<p>認知症については、誰もが当事者になるかもしれないことなので、地域での連携が大切だと思う。認知症についても支え手のサポートや悩みを把握できないと意味がないので、業者と市との連携がとれる仕組みの構築を望む。</p>	<p>認知症に係る施策について、令和2年7月1日に「草津市認知症があっても安心なまちづくり条例」を施行したところ。この条例は、認知症があっても安心なまちづくりの基本理念を定め、市の責務ならびに市民、事業者、地域組織および関係機関の役割を明らかにするとともに、認知症施策の基本となる事項を定めることにより、認知症施策を総合的かつ計画的に推進し、認知症の方およびその家族が安心して生活できるまちを実現することを目的としています。</p> <p>このことを踏まえ、今年度に策定予定の「草津市認知症施策アクション・プラン第3期計画」において、具体的な施策について検討を行うことから、ご指摘いただいた連携の仕組みについても検討していきたいと考えております。</p>